令和４年度

―　テーマ・水について考える　―

水の週間記念作文集

第44回「全日本中学生水の作文コンクール」三重県推薦分

目次

（掲載順は、各賞低学年から、学校名・氏名とも五十音順）

第44回全日本中学生水の作文コンクール　優秀賞（独立行政法人水資源機構理事長賞）

第19回琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール　流域賞

見える水と見えない施設　高田中学校　二年　谷野由依　……1

第44回全日本中学生水の作文コンクール　入選

「那智の滝から考える水資源」　高田中学校　二年　山本沙羅　……3

第44回全日本中学生水の作文コンクール　佳作

「水」が教えてくれたこと　高田中学校　一年　大澤由愛　……5

水資源を守るために　高田中学校　一年　曽原怜奈　……7

父の仕事　高田中学校　二年　櫻井つむぎ　……9

第44回「全日本中学生水の作文コンクール」について　……11

優秀賞（独立行政法人水資源機構理事長賞）・流域賞

見える水と見えない施設

高田中学校　二年　谷野由依

みなさんは普段、自分が飲んでいる水のことについて意識したことはありますか。テレビのニュースで水について考えさせられるようなことが増えてきたように感じます。アフリカのある地域が慢性的に水不足になっていたり、また、台風による川の増水で被害が出たりしているニュースを見て、水について全く意識したことがないという人はあまりいないと思います。私自身、今使っている水の有り難さを考えたことは何度もあります。

実際、蛇口から出てくる水の奥にある、見えない水道管について考えたことはあまりありませんでした。しかし以前、祖母の家の近くの水道管から水が漏れていることをたまたま知りました。その水道管は橋の横にあり、見える位置でした。祖母は私をそこまで連れて行ってくれ、私はとてももったいないと感じました。その後、修理を市役所に要請し、直してもらったそうです。

なぜ破損してしまったのか父に聞くと、老朽化だと言われました。前に橋の老朽化の記事をインターネットで読んだことがあったので、同じようなことが起きているのではないかと考え、厚生労働省の資料で調べました。資料によると、高度成長期に急激に普及した水道の更新時期が現在来ているそうです。水道管路の法定耐用年数は四十年ですが、施設の更新が進まないために、老朽化が進行し、漏水等の事故が増加し、年間二万件を超えているそうです。さらに、水道管路の耐震化はあまり進んでおらず、大規模災害時に断水が長期化するリスクもあるそうです。

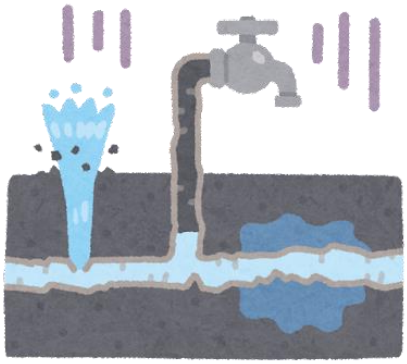
私の家の周辺では、今のところ漏水という言葉はあまり言われていません。しかし、地中にある水道管は

もしかすると今この瞬間も壊れてしまっているかもしれません。また、三重県は南海トラフ地震が今後起きた際に多くの被害が出るといわれている地域であり、あくまでデータが全国のものだとしても水が安定的に手に入れられるまでに長い時間がかかるだろうということが予想できます。大きな綻びができてしまう前に、根本から変える必要があり、私たちもそれに協力する必要があることを感じました。

大きな綻びの例が、去年和歌山市で起こった事故だと思います。紀ノ川に架かる「水管橋」が崩落してしまい、多くの人々が断水による影響を受けることとなってしまいました。どんなに最新技術がはやっても、生活の基盤が一つなくなるだけでこんなに不安定になってしまうのかと衝撃を受けました。

しかしまた、私たちの生活を支えている水道の奥にも縁の下の力持ちは存在しています。浄水場やダムです。私は小学生の時、社会見学で浄水場に行きました。整然とした手順で水を安全にしていくのを見て驚いたということもありましたが、一番不思議に感じたのはもっと郊外の方だと思っていたのに、案外市街地に近く、私の世界のすぐ近くに潜んでいたということでした。教科書でいくら密接に結び付いていると説明されても納得できなかったことが分かりました。

その浄水場が水を取り入れているのは川なのです。川から家の蛇口までが淀みなく連携して初めて、水を活用することができるのです。それは逆に言えば、どこかがおかしくなると水を全く活用できないということでもあります。河川の護岸工事も浄水場の点検も、私たちに無関係だとは言えないし、無関係だから無視していいともましてや言えない問題です。目を反らさず、地域の問題が何であるかを知ることから始めたいです。



入選

「那智の滝から考える水資源」

高田中学校　二年　山本沙羅

和歌山県那智勝浦町にかかる巨大な滝、「那智の滝」。その大きさは、一段の滝としては落差日本一となるほどです。熊野那智大社とともに有名な観光地となっており、連休などには多くの人が訪れます。私も、この「那智の滝」を見た経験があります。透きとおった水が大迫力で注ぎこんでいる情景は、今でも忘れられません。

さて、この「那智の滝」の美しい姿、実はそこには、森も大きく関わっています。一年生のとき、国語の授業で、『森には魔法つかいがいる』という文章を読みました。その文章では、「森と川と海は一つである」と述べられていました。まさに、「那智の滝」でも同様で、「那智の滝」の周辺の森が、水源のかん養、水質保全、土砂流出の防止、いやし効果や地球環境の保全などの多くの役割を担っています。

しかし、「那智の滝」を取り巻く森には、危機が迫っていました。それは、その森の多くが民有地であり、経済林となっていることです。もちろん、森の所有者はきちんと管理をされています。ですが、経済林であるため、伐採も懸念されるのです。過去には、森の伐採が原因で滝の水の枯渇の危険にまで及んだこともあったといいます。

では、どうやって森と滝を守るのでしょうか。普通、莫大な広さの森を所有・管理しようと思うと、多額の費用、人手……考えただけでも気が遠くなります。しかし、那智勝浦町は諦めませんでした。那智勝浦町では、民有林を買収して管理するために、「那智の滝源流水資源保全事業基金」という取り組みを始めたのです。最初は寄付がなかなか集まりませんでしたが、パンフレットの作成や募金箱の設置、そしてふるさと納税な

どを活用することによって、徐々に寄付が集まるようになりました。そして、今も滝の水源を守るための取り組みが行われており、多くの企業がそれに協力しています。

たくさんの人に支えられて、今日も流れ続ける「那智の滝」、その存在には、数えきれないほどの努力があったのです。那智勝浦町の元町長であった堀さんは、「百年先の森づくりへ夢を持って取り組む。町が元気になったと言ってもらえる施策を進めたい。」と話しています。正直、私はこの文章を書くまで、「那智の滝」が環境問題に直面していることや、水源を守る取り組みが行われていることを知りませんでした。文章を書く際に「那智の滝」についてたくさん調べ、初めて知ったことが多々ありました。そして、自分に感動を与えてくれた「那智の滝」を、少しでも支えたい――そう考えました。「たとえ高額なお金を寄付できなくても、行われている取り組みをいろいろな人たちに発信すれば、みんなの水資源として守っていけるのではないだろうか。」私は、これから、「那智の滝」の水資源の問題について、みんなに伝えていきたいと思います。そして、「那智の滝」以外の水資源の問題にも目を向けてほしいです。現代では、環境問題というのは、とても身近なテーマです。だからこそ、自分の好きな自然についてよく知ることが、環境問題から守るのにとても大切なことなのです。

「那智の滝」で見た、水の美しいカタチを、水への理解を深めることによって、多くの人と共有し、みんなで守っていきたいです。

佳作

「水」が教えてくれたこと

高田中学校　一年　大澤由愛

水をテーマに作文を書くと聞いたとき、以前旅行に行った先での出来事が私の脳裏にパッと浮かびました。それは、「あたりまえにある水」を「大切に使わなければいけない水」と考えを改めるきっかけを私にくれた出来事です。

私の家族は旅行に行くことが好きで、コロナウイルスが流行する前はよく色々な場所に出かけていました。小学三年生の夏に行ったタイのプーケット島では、私達家族のコーディネートをしてくれる方が空港で待っていてくれて、ホテルに向かう車の中で人気のお店や料理の話・エステの話などを母と話していました。その話のなかで、「部屋に置いてあるペットボトルの水で歯磨きをした方がいいですよ。」と説明してくれました。私はその時「どうして？」と聞きました。すると、「日本は手を洗う水もキレイな水だからお腹が弱いのか、ここの水でお腹を壊してしまう人がいるんですよ。」と教えてくれました。水の話以外はサラッと聞き流していましたが、今まで行った旅行先では言われたことがなかったので、水に関することは記憶に残りました。しかし、ホテルの部屋で手や顔を洗ったときも違いは分からなかったし、五日ほど過ごしても特に体に異変はなかったので、ホテルのプールやショッピングの楽しさが勝り、「水」の話は忘れかけていました。しかし、旅行のオプションでコーラル島という離島に渡った時、「水」について考えさせられることがありました。トイレです。トイレにおどろきました。私がいつも使っているトイレと違い、便座の横になぜかシャワーのようなものと大きなゴミ箱が置かれていました。トイレのドアを開けてすぐに「これは何のために使うの？」と母に聞くと「汚れたらシャワーで流

して、ふいたペーパーはゴミ箱に捨てるんだよ。こういうトイレもあるから覚えておくといいよ。」と教えてくれました。日本では水洗トイレがあたりまえだけど、タイなどのアジアでは水洗トイレがないことが多いことを初めて知りました。生まれた時からキレイなトイレを使っている私にとっては、おどろきでしたが、水について考えるきっかけになりました。

ちょうどその頃、父のスーツにカラフルなバッジが付いているのを見つけ、「パパそれ何？」と父に聞いたら、「これはＳＤＧｓっていう世界的な取り組みがあって、パパの会社もその中の三つの目標を達成するためにがんばっていて、取り組んでいることを示すバッジなんだよ。」と話をしてくれましたが、いまいち意味が分かりませんでした。私が不思議そうな顔をしていたからと、父がＳＤＧｓについて小学生でも分かるように書かれている本を買ってきてくれました。本を読んでいくと、ＳＤＧｓには世界のみんなで協力して地球環境や人々の生活を守り、明るい未来をつくるための十七個の目標があり、ＳＤＧｓバッジはそれぞれの目標の色を使っているからカラフルなんだと分かりました。その一つに「安全な水とトイレを世界中に」という目標がありました。世界の十人に三人は安全な水を自宅で利用できないし、四十二億人が安全に管理されたトイレを利用できないと書かれていました。私が旅行先で経験したことは、世界各地での現実なんだと分かりました。

私は今まで、特に何も考えずにレバーを触って水を出し、手を洗い歯を磨いて時には水を出しっぱなしにすることもありましたが、それ以来手を洗う時やシャワーを使う時など水や湯を出しっぱなしにはしないこと、トイレも必要以上に流さないことを心がけています。わずかなことかもしれませんが、あの時「水の大切さ」を感じた気持ちを忘れずに、今ある生活があたりまえにあるわけではないことを忘れずに、「水」が教えてくれたことを胸に私自身ができることを続けていこうと思います。

佳作

水資源を守るために

高田中学校　一年　曽原怜奈

二〇一七年のユニセフとＷＨＯの報告によると、世界人口の約一割に相当する八億人が安全で清潔な水を利用できないそうです。私は意外と多くの人が水道を使えるのだなと思いましたが、日本のように蛇口から水道水を飲むことができる恵まれた環境にある国は十五か国程度であることに驚きました。多くの国では水道は通っていても飲料水としては煮沸消毒したり、市販のミネラルウォーターを購入したりしているようです。世界では、水道設備の不備により安全で清潔な水を利用できないため、下痢症にかかって一年に二十九万人の子どもたちが死亡していて、これは二分に一人が亡くなっている計算になります。

二〇一五年の国連サミットで、二〇三〇年までの行動計画として十七の目標から成るＳＤＧｓが採択されました。そのうち六番目の目標に「安全な水とトイレを世界中に」が掲げられました。日本は自然豊かで水資源に恵まれていることに加え、水道法によって水質の基準が守られているため、安全な水を比較的簡単に手に入れることができます。世界では水をくむために遠くはなれた川まで何時間もかけて徒歩で出かけなくてはならず、そのため学校にすら通えない子どもたちもいるというのに、何とありがたいことかと思います。

小学生のとき、水道の水がどのように各家庭まで運ばれているのか知りたいと思い、夏休みに家族で浄水場見学に行きました。そこで、私たちが安全な水を簡単に手に入れるために、いかに大変な手間と労力がかかっているか実感しました。取水口から川の水をくみ上げ、浄水場の広いしき地にあるたくさんの水槽のなかでゆっくりと時間をかけてろ過をし、最後に塩素を

投入して各家庭に水を送っていました。私たちは、長い時間をかけきれいで安全になった水を利用できるのだと分かり、改めて水を無駄に使うのは許されないことだと思いました。見学の説明のなかで「水の３Ｒ」という言葉を知りました。Ｒｅｄｕｃｅ（出来る限り水の使用量を減らす）、Ｒｅｕｓｅ（くり返し使う）、Ｒｅｃｙｃｌｅ（処理をして再利用する）から成る３Ｒです。はじめの二つについては個人ですぐにでも実践することができます。手を洗うときに水を出しっ放しにしない、お風呂の残り湯を洗濯に使うなど、心がけ次第で簡単にできます。三つ目のＲｅｃｙｃｌｅは、個人レベルでの実践はなかなか難しいので、下水道に任せることになりますが、日本の下水道の普及率は八割程度だそうです。上水道に比べると低い感じがしますが、インターネットで調べてみると費用面から個別に浄化槽で処理したほうが効率が良い面もあるようです。他にも、生魚などを食べた後、残ったしょうゆをそのまま流さず、ペーパーで拭きとってから洗うようにすると、環境に良いという話も聞きました。ちなみにしょうゆ十五ミリリットルを流すと、それを魚が住めるようになる水にするには、お風呂約一・五杯分の水が必要になるそうです。正しい捨て方を知ることは、環境を守ることにつながることが分かりました。

日本は、あまり雨が降らず、節水が求められるような年もときどきありますが、豊富な雨や雪が山や川にたくわえられ、一年中水不足に困ることはありません。しかし、自然が豊かな日本であっても、水源は無限にあるわけではありません。最近は、地球温暖化の影響で気候変化が激しくなっていて、いつかは水不足に苦しむことになるかもしれません。私たちは一人一人が水を大切にすることを第一歩に地球環境を守っていかなければならないと思います。

佳作

父の仕事

高田中学校　二年　櫻井つむぎ

私は、「水」と聞いて最初に下水道を思い浮かべました。なぜなら、私の父は、市役所の下水道課で働いているからです。そこで、父にインタビューをしてみることにしました。

下水道課は普段、各家庭から出る生活排水などを処理場で綺麗にし、川や海に流して、水を循環させる仕事をしているそうです。しかし、父は工事などの土木作業を行うわけではなく、市単位でどれくらいの水を流しているのかを計算し、予算書や決算書などをつくる仕事をしているそうです。その他にも、工場などから排出される工場排水が、下水道に流してもよい水準まで達しているかの確認もしているそうです。

雨として地上に降り注いだ水は、地面に染み込みます。その水は、浄水場で綺麗にしてから、配水池や水道管を通って、蛇口から出てきます。そして、私たちが下水として流した水は、地下の下水道管を通って、下水処理場で処理された後、川や海などに流されていきます。その水が、蒸発して、また雨が降ります。その繰り返しによって、水は循環し、私たちが水をふんだんに使える世の中が成り立っているのです。

もし、下水道の設備が整っていなかったら、汚れた水をそのまま川や海に流すことになるため、環境や生態系が破壊されるほかに、私たちが汚れた水を飲むことによって、病気や感染症がまん延することにもつながってしまいます。上水の陰に隠れ、あまり目立たない仕事ですが、水を繰り返し使えるようにするために、重要な仕事だといえるでしょう。

今、下水道課が取り組んでいる仕事のひとつに、不明水事業があります。不明水とは、何らかの原因で下水道管に入り込んでしまった雨水や地下水のことで

す。下水道管の老朽化により、雨水や地下水が染み込みやすくなるので、結果として不明水が増加してしまいます。不明水が発生している場所を突き止めるために、下水道課の方々は、雨が多く降っているときに、交通量なども確かめながら、道路にあるマンホールを開けて流れる水の量を確認するという地道な努力を何度も何度も繰り返しています。

その結果、不明水の量は、少しずつ減少しているそうです。しかし、不明水がゼロになったというわけではありません。そこで、父はまだまだ地道な努力を続けて、少しずつ改善させていくことを目標に、今日もパソコンに向かっています。

実は、私は、下水道というとどうしても汚いイメージを持ってしまい、今まで父の仕事に対してあまり誇りを持っていませんでした。また、お父さんが医者の友達も少なくないこともあり、父の職業を言うのを避けていました。

しかし、今回のインタビューを通して、父の仕事に初めて興味を持つことが出来ました。その他にも、父の仕事の向き合い方についても知ることができました。父もはじめは、下水道課だということを少し嫌だと思ったことがあるそうです。しかし、父自身も下水道の大切さを、仕事をしていくうちに学んでいったそうです。そうやって、市内に住む人々のために、たくさんの仕事をしているほかに、洗濯物や洗い物など家の仕事も担ってくれている父を尊敬しています。そして、私も、いつかたくさんの人のためになれるような仕事をし、地道な努力を続けられる父のような人になりたいと思いました。

第４４回「全日本中学生水の作文コンクール」について

「水の週間」（８月１日～７日）行事の一環として実施された、第４４回「全日本中学生水の作文コンクール」の概要は次のとおりです。

１　応募要領

（１）課　　題　　「水について考える」（題名は自由）
（２）原稿枚数　　400 字詰原稿用紙４枚以内
（３）募集期間　　令和４年１月１４日～令和４年５月９日
（４）版 権 等　　・応募作品は自作未発表のものに限る。
・応募作品の返却は行わない。
・入選作品の版権は主催者に帰属する。

２　地方審査

第４４回「全日本中学生水の作文コンクール」審査基準に基づく審査により、優秀作文５編を決定しました。

審 査 員（４名）
三重県中学校国語教育研究会会員
三重県環境生活部大気・水環境課職員
三重県企業庁企業総務課職員
三重県地域連携部水資源・地域プロジェクト課職員

３　三重県の応募状況

応募学校数	応募総数	学　年　別		
		1 年生	2 年生	3 年生
４校	456 名	222 編	201 編	33 編

４　中央審査

各都道府県から推薦された優秀作文は、国土交通省におかれる中央審査会で審査され、最優秀賞１編、優秀賞１０編、入選２９編、佳作（最優秀賞、優秀賞、入選を除く作文）が決定されました。

５　主催・共催

主催　水循環政策本部、国土交通省、三重県
共催　琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実行委員会

６　そ の 他

優秀作文５編については、「琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実行委員会」（構成団体：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）でも審査され、流域賞１編が決定されました。

三重県　地域連携部　水資源・地域プロジェクト課　　（令和４年７月）